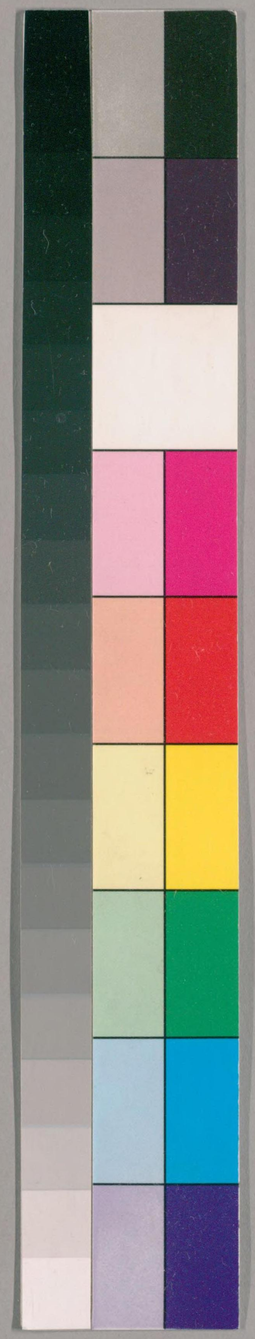
丹鶴叢書

源重之女集
小侍従集
鼓富門院大輔集

117
105
2

東京圖書館

和書門 叢各類
二函 ね 二架
二號
一〇五冊



国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

東圖藏書

丹鶴叢書　丁未帙

故梶原芳楚納本

従五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

梶原家蔵

源重之むすめ集

春たつ日ある所のおほとこ

うそ寒くつとこもるなるもとつけの住吉

そこのしらまきのうらなみ

岩くゝまつ

たなゝもゝよゝまさきはふ神

人丸のまろ丸ともあとも

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

風雅秋中
選子内親王
今すむ社の月さ
やかりともなく何
となくそのなく
さめうもん

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

本集　左大おの家の百首のそう四さとのそう

小侍従集

己家立春

本集
月詣雑上

題不知

思ふともひとはなをなをなぐさめてなほ恋しきはなのかげかな

霧満浦

光のどかくもらぬ空にふる雪のきえでぞ春の色はみえける

忘れ草

忘れ草ふかくしたれば思ひのみ心のうちにおひしげるかな

老尋 [illegible] 菜

[illegible] 松 [illegible]

ちとせふる松のみやまのまつ [illegible]

宮下梅

夫木卅一

月さえてかおるさぬ宮の [illegible] 梅 [illegible] ふる [illegible]

柳掛水

みるとてみさえの柳枝 [illegible]

[illegible] 雨

[illegible] 夜 [illegible] 夜の [illegible]

[illegible] 小侍

[illegible] 詞

[illegible] 摘題

[illegible] 見 [illegible]

[illegible] 摘題

[illegible] 摘

[illegible] 摘

[illegible] 摘題

[illegible]

花

[illegible]

百首中

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

万葉 ふゝのをこのえび

本集 そやくまの山のきゝをうらめ
ふゝこゝのゝうとハさ
ぬるゝもおハぬさ
くらの花ハさとて
此哥月詩摘題共出

本集 夫木四
摘題

海をゝ
おもとてふの浪のゝ
ねくらの花

夫木

反

摘題

夾摘

ほつまるゝ

女ら

ゝ

小侍

夫木廿三

摘題

晩水鶏

摘題

摘題

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

本集 おくのかうく

摘題 夜泊雁

終日向泉
てふむすふいつきの水よりき新とをき
を稍葦枕
新名をそそもものそそるふ
曉汎水秋
本集 みそき川おこうみのせのやとイ
摘題 おてへ摘ゆるをつもをも
寐まう迫
ゆるの浪も秋をそうおる
脫衣寄妻

本集 月のとろき
ころ

志ろるこおろこのやうのあまそうろ
摘題 翫月 聖り摘
いろそおやるまるおあにた
月をを述情哥仙情
本集 哥仙落尽 擣衣 長
おまのうつまそれのまる
於窗虫
しめもいおの床やもろ哥仙
衫業送人

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

本集 そめの

みそむるそめぬとそのうまれ
きてみのうまもまへ
山もさむし秋
さらぬうつのかあるこうと
狩ゆく時雨
本集
そつ時雨ねぬのとこにるてれ
枯そ
二ちうち乾まのまとうめ
雪中遇友
ふるをふうめる訪の跡
小雪

本集 百そのうの
あうふうとのそこふ
歌

本集 百そのうちた
うと日とをぬ

山居
さゆるおいひとやき大
冬歌
本集 ふゆこ月 ふゆこもる多本
月詣十一月
こもりをみぬ
寄物
本集
みうとるすそのまま
梅を
さおとうとする
橋上愛
吹るこの

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

遠鴻を鳥

夫木九五

かりがねのくもゐはるかにきこゆなり
くもゐ夫

家をおもふ旅の空

りやうふねのまほをあやつるかぜのおとに
なみのうへまでおもひこそやれ

名所

秋中名所

摘題

あきのつきにてこそさやけきものなれ

雑

名所

舎坂

なにはえのあしのかりねのうきふしを
こやのつまとやいはんさかやの

雑波江

あまをぶねのほちの月のかげみてや
なにはえのあしのかりねをおもふらん

和歌浦

かきつめてあまをぶねのほすてふ
わかのうらめのもしほたれつつ

吉野橋

よしのやまこのしたかぜやふきぬらん
はなのうへよりくものこぼるる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

本云

此本一夜仁馳筆書写之定漏多〻有之哉
後人一見之時被直付者可為芳志者也

應永廿六年八月日

前上総介

右小侍従集一巻以飛鳥井栄雅卿自筆本
書写之由藤原某奥書有之

殷富門院大輔集

春

夫木一
まつそこのとをあらしまちえてさくはなのかけ風ゆるふも也
こゝろさしつるもしるとそ思ひ初よのつねならぬ花のいろ
おくまる雪をもてゝふるさとに
王葉雑一
まちこぬとさくらおもふもあるかひのなきにしもあらぬ春雨
夫木一
志賀のめくのなかなかおいめやそ
ものすゝろあるものそとのみすまふ
風雅春下
ちりくすくまのおもてをてりし井を
小田のもゝ〻ろ風
井の田

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

夫木五
よのさまのこゝろのまゝにおくしもの（こま）（の夫）
このまもそまもそまもそしかもよ
こまもとめてもみむ
新古今春下
花ゆへにこゝろまどはすいにしへの
うつゝにそよそうさはてうさ
なつ
いそのかみやとのさくらもうつろひぬ
夫木八
夜のうちにふりしはかりの
夫木九
夜ふかくなきてすきゆくほとゝきす
秋
夫木廿六
夕されはおのの
夫木十四
きりたちわたるあきの
夫木十四
ちとせのこもるあきのむさしそ

ふるてをぬらすうつゝそれよりの
続後撰夏
いつこふく
（るゝ続後）
夜ふかくなきてすきゆくほとゝきす
秋
夕されはおのの
秋来ぬとめもはるかにしかの
（しる続後）
夜のうちにふりしはかりの
夫木十四
きりたちわたるあきの
夫木十四
ちとせのこもるあきのむさしそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

金葉秋下　大江嘉言

秋のよの月を

夫木廿一　秋のよの夫

月ぞすむこのうらなみのふるさとは

新勅雑一　時代不同哥合　もと哥 哥仙落谷

ものそともてみさらん秋のそらの月

玉葉雑一

おもふさの友ともなるものもかな

秋風ふく夜の月

梅のかのおもてをいろふくる

とのうへに秋ふる

秋風ふふるまもなく夢よりけ

てのそともる

おもふ風のそ

続後撰秋下

やとりかしまくらやり秋の月

きりふかしまくらやり秋の月

玉葉冬

もみの秋のよるをぬる

夫木十六　神無月

このそともそ秋もあ

袋の

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

徒古今哀　時代不同哥合
万代雑五　もとん方

新勅物名

新勅

夫木二十　三重山

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

新勅　薩埵王子のこと

華嚴經

私の月ぬきほそのこと

最勝王經

新勅釈　ことをする勅

ものそそそ云そそけ一体のこと

維摩經

むその内もそそそんもそ

法華經

くそる霧のそ毎一八巻のこと

涅槃經

津そ不思ぬそそそ也引

かな我の称をそ保よそんらそめまつ

そそそふをさめんそそそ

まつそ

神人の家作そまま風をそ

夫木三十四　しめ井内そそそ雪うそ夫

夫木五　ゆそ石そそそしのそつそまそ

そそ巻そそ花の影そ石そ

おそそそ私の神風作そそ

月中そる石そのの影清ゆそ

神そのそそ井おそ巻のそそそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

丹鶴叢書目録

丁未帙

正中御飾記一卷

内宮御神寶記一卷

後水尾院當時年中行事二卷

春記三卷　同裏文書

九條右大臣集一卷

御堂関白集一卷

藤原家經朝臣集一卷

和泉式部續集一卷

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

源重之女集一卷
小侍従集一卷
般富門院大輔集一卷
風尓津連奈幾物語一卷
　已上捴十二部十五卷或分或合為十一
　本
戊申帙
雜筆要集一卷
諸陵雜事注文一卷
室町殿春日詣記一卷
諸鞍日記一卷
類聚名義抄十一卷
萬代和歌集二十卷
　已上捴六部三十五卷

嗣刻

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

117
105
2

丹鶴城藏梓

賣弘所

三都書肆

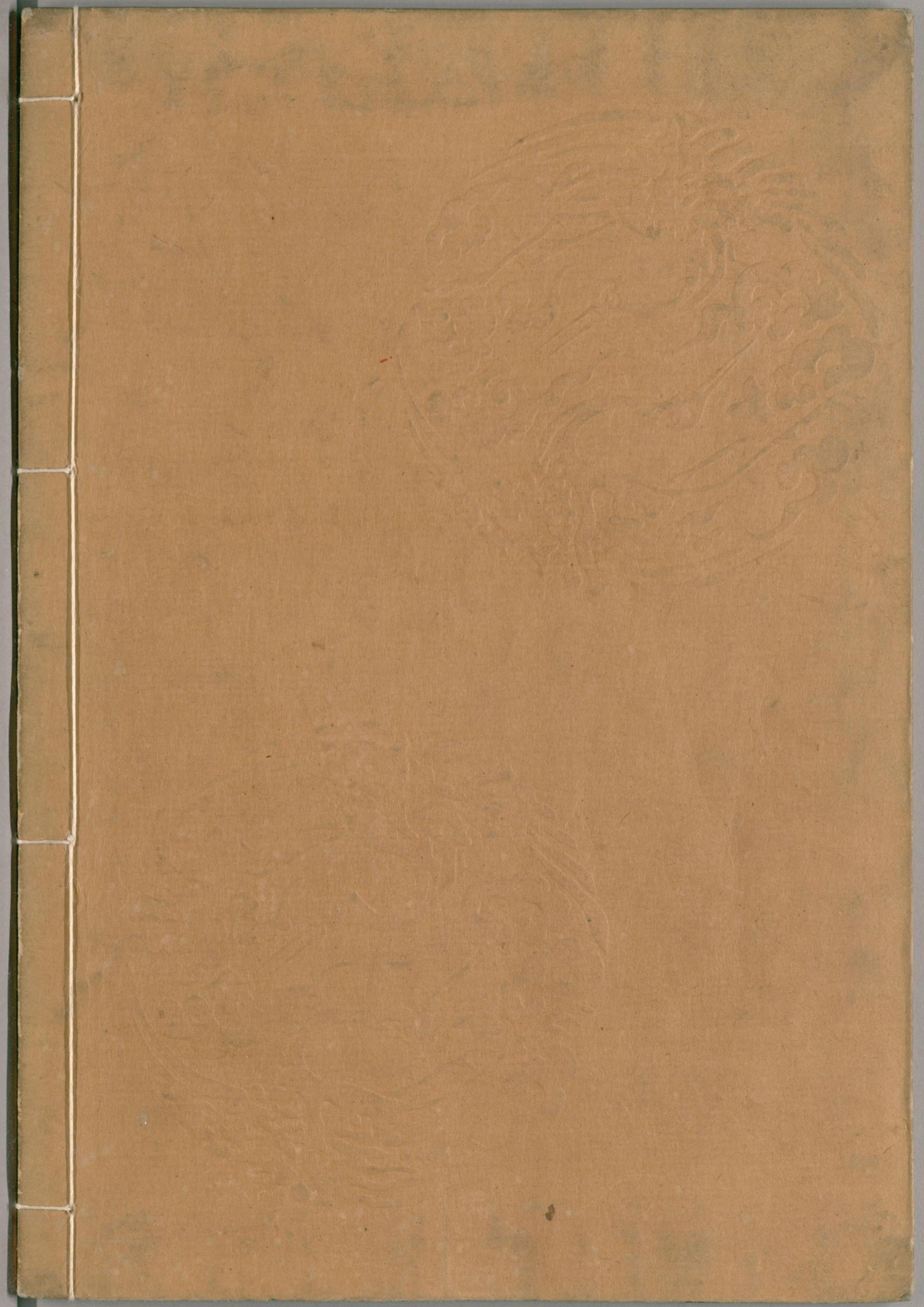
京都三条通升屋町　出雲寺文次郎

大阪心齋橋通安堂寺町　秋田屋太右衛門

江戸芝神明前　岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町　中屋徳兵衛

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用